8 評価

環境コミュニケーション／公立大学法人大阪

2024年8月7日、大阪公立大学中百舌鳥キャンパスにおいて、公立大学法人大阪との意見交換会を開催しました。（公立大学法人大阪25名、東海国立大学機構17名が参加）

公立大学法人大阪では、大阪公立大学、大阪府立大学、大阪市立大学、大阪公立大学工業高等専門学校の学生有志と教職員で組織された「環境マネジメント推進室」において、学生目線で大学における社会的責任に関する成果をまとめた環境報告書を作成しています。環境マネジメント推進室の学生委員が「ECOアイデアコンテスト」を開催していること、また、他の環境活動団体では憩いと交流の場となるキャンパスの広場の維持活動を行っていることなど、多くの学生主体の環境に関する取組を実施していました。

岐阜大学・名古屋大学は東海国立大学機構として統合し、大阪府立大学と大阪市立大学は大阪公立大学として統合しました。お互いに、大学の伝統を大切にし、また離れたキャンパス間のコミュニケーションにオンライン会議を活用するなど、コミュニケーションをとるための工夫について意見が交わされました。

3大学の環境サークル4団体の活動についても紹介し、自転車・家電などのリユース活動、学内や地域の方に向けての環境啓発イベント実施や学内外での広報活動等について活発な意見交換が行われました。意見交換会後は、大阪公立大学中百舌鳥キャンパスの施設を見学させていただきました。

意見交換会でのご意見は、環境報告書ならびに環境活動のさらなる発展に役立てていきます。

いただいた意見

- 読者の対象として、大学の構成員だけでなく高校生や地域住民等も想定しており、近隣の高校や地域のコミュニティーセンター等にも配布している点や、環境報告書の表紙を公募している点は、環境報告書を知ってもらうきっかけになっている。
- 岐阜大学では、ISO14001の内部環境監査を実施する中で、学生も監査委員として参加している。内部環境監査の活動について、講義として開講し、単位を取得できるようにすることで学生にも利点となっている。

参考になった公立大学法人大阪の取組

- 環境報告書の作成は、学生主体で進められており、素晴らしいものとなっている。他大学や企業とも積極的に交流し、地元企業や行政と行うプロジェクトがあった。
- 学生の環境に関する活動として、物品のリユースや学内の動植物の調査、学園祭中の廃棄物処理、地域との交流など、活発に活動している。

参加学生のコメント

とても充実した時間を過ごすことができました。どの学生も環境に対して真剣に向き合い自ら考え行動に移しお互いを高めていこうと努力されている姿に圧倒されました。大阪公立大学中百舌鳥キャンパスの広さは敷地外とは異世界のように自然豊かで、勉強合間の学生のお気に入りと言われていた空間では私もとても気持ちが落ち着き癒されました。

▶名古屋大学生命農学研究科
博士後期課程1年
猪子順子

各大学の環境報告書を読み、取組を聞いて、環境活動について理解が深まり、学生視点での活動の考えが深まりました。1つのチームとして様々な環境活動に取り組んでいる大阪公立大学、それぞれの特技を活かして多数のチームで環境活動に取り組んでいる名古屋大学と岐阜大学、形は違えど良い環境づくりに貢献していく姿勢が素晴らしいと感じました。

▶岐阜大学教育学部3年
藤井大輝
（岐阜大学生協学生委員会（GI）所属）

環境コミュニケーション ／ 東邦ガス株式会社

2024年3月18日、みなとアクルスエネルギーセンター（名古屋市港区）にて、岐阜大学・名古屋大学で環境活動に取り組む学生15名が、東邦ガスの方々と意見交換を行いました。環境報告書2022の第三者評価をお願いしたこと、また岐阜市脱炭素社会推進シンポジウムにおいてCSR※1環境部長の中野康治様と交流があったことがきっかけで、今回の環境に関するコミュニケーションが実現しました。

※1 CSR:企業の社会的責任。Corporate Social Responsibilityの略。

東邦ガスのノウハウを結集した、先進エネルギーシステムを取り入れたまち「みなとアクルス」の施設や、東邦ガスにおける環境配慮活動について説明いただきました。続いて、東海国立大学機構の取組、学生環境サークルの取組を紹介し、意見交換を行いました。

学生からは、東邦ガスのメタネーション技術※2などについて質問があり、カーボンニュートラルへ向けた取組について、知る好機となりました。

※2 メタネーション:水素とCO_2を反応させ合成メタンをつくる技術。脱炭素化手段として期待されている。

意見交換の話題

- みなとアクルスのエネルギーマネジメント
- 脱炭素化に向けたメタネーション技術
- 地震におけるガス供給
- 環境の取組についての広報の仕方
- 経済活動、環境活動を両立させる取組

etc.

参加学生のコメント

みなとアクルスでは、スマートエネルギーシステムにより電力供給が商業施設から住宅まで一元的に管理されていることに驚きました。

意見交換会での議論の中では、「不便性の甘受」という言葉が印象的でした。カーボンニュートラルの実現には事業者だけでなく、市民も協力しなければならないことを強く認識しました。

東邦ガスではエネルギーの面から地域を支えながら脱炭素社会を目指す取組が行われていました。中でも、既存のインフラをそのまま利用できるメタネーションの技術開発や省エネに取り組んだ分住民が得をする街づくりが印象に残りました。顧客の満足と環境問題解決を両立させようとする姿勢が、今後重要となるのだと実感できました。

東邦ガス（株）コメント

当社が「みなとアクルス」で取組んでいるエネルギーマネジメントや、メタネーションについて、皆さんから積極的な質問を受け、興味を持っていただけたことを嬉しく思います。また、皆さんが各々の立場で環境活動に精力的に取組む姿に大きな刺激を受けました。今後もこのような交流を継続していければ幸いです。

第三者評価

中部標準化懇話会
会長　花﨑 雅彦 氏
（前 住友理工㈱ 取締役CQO&常務執行役員）

猛暑の頃、前刷りの最終稿がメールボックスに届いていました。早速に拝読すると私の期待をはるかに超える出来栄えでした。TOPICSである東海国立大学機構としての防災・減災特集に始まり、大学の環境報告書らしく企業のそれとは異なり、環境研究・教育の最前線が紹介されており、知的好奇心が惹きつけられました。また、岐阜大学、名古屋大学を対比するような紙面構成、グローバル化している様々な活動、学生インタビューなどは、それぞれの大学の特徴が出ており大変読み応えのあるものでした。特に学生が内に外に躍動する状況が確認でき大変素晴らしかったです。私は、本冊子制作のキックオフミーティング（3月開催）に同席させて頂く機会があり、どのように異なる大学の学生がコラボして紙面を作っていくのか、興味津々でしたのでその想いを強く持ちました。本冊子の特徴の第一点は、ここにあると思います。毎年学生が替わっていく中で、大学職員と教員の方々が二つの大学を連携させている姿は、我々企業も見倣いたいところです。

次に目を奪われたのは、大学として環境マネジメントシステムを取得され、その運営にあたって、学生に“内部監査員”の資格を取得してもらい、実際の監査を継続的に実践している「内部環境監査員養成研修」です。大学は固有技術の研究・獲得が主な存在理由であると思いますが、やはりマネジメントシステムといった優れた管理技術があると更に固有技術を伸ばすことに繋がります。大学でこのような実体験ができる機会は希少であり、みなさんのご努力は計り知れません。マネジメント思考、システム思考は、多くの企業や組織のあらゆる場面で活用される重要な考え方です。それらが彼らの生涯欠かせない武器の一つになるのではないかと考えます。

少し残念だったのが、本冊子の認知度が意外にも低いことです。“冊子を読んだ”、がわずか6%、しかし、“読んでみたい”、が実に71%もあります。読みたい人にどうやって届けるのか？　最近、多様化するスマホのアプリを活用して、環境行動と冊子購読を生協ポイント化するなど、学生に遊び感覚で伝える工夫を加えることで認知度や環境データが共に向上するのではないかと思います。

持続的な社会実現のための開発目標であるSDGsに関する活動が多くの企業・組織で実行されています。私は、25年前、“日本経営品質賞”に出会いました。これは、米国のマルコム・ボルドリッジ国家品質賞を模したもので、経営品質の向上を通じ顧客価値経営の実現を目指そうというものです。そのアセスメント基準の最初に「企業の社会的責任」があり、具体的には社会要請への対応と社会への貢献を求めています。経営とは「顧客価値創造」ですが、その前提は社会的責任を果たすことです。今や、SDGsという前提そのものが新たな価値にまでなっています。この30年間での経営環境の変化の最大のものと言えるでしょう。

今後も本冊子の充実・普及はもとより、多くの環境技術の研究・開発、それを実現できる優秀な人材の輩出と共に、東海という地域に根差し、東海国立大学機構としてきらりと光る新たな価値を創造してもらいたいと思います。末筆になりますが、このような寄稿の機会を頂き大変ありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

CJF 中部標準化懇話会
Central Japan Standardization Forum

中部標準化懇話会
http://cjsf.info/